

鹿屋市立鹿屋看護専門学校学校関係者評価

令和6年5月27日(月)

I 学校紹介

学 科：看護学科(3年課程全日制)

1 学年定員：30 人

在籍数：90 人(令和6年4月1日現在)

卒業後の資格および進路：資格一専門士称号授与、看護師免許

進路一看護師就職、助産師・保健師学校進学や大学編入

主たる実習施設：(1)鹿児島県立県民健康プラザ 鹿屋医療センター

(2)社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院

カリキュラム：シラバス参照

国家試験合格率：96.4% (令和5年度第113回看護師国家試験)

(平成23年度～3年課程卒業生1名不合格)

II 学校関係者評価

第3回(令和5年度)結果報告

令和6年3月15日(金)に学外学校関係者委員(看護教育関係代表、臨床看護代表、地域住民代表)を招聘し、学校職員6人と共に9名参加のもと学校関係者評価委員会を開催した。

1 方法

学校側が評価した自己点検・自己評価の結果を報告し、是非を問うと共に、課題と考えられる前年より平均点が低下した領域や例年平均点が低い領域に焦点をあてて検討した。

2 自己点検・自己評価結果(レーダーチャート・一覧表参照)

自己点検・自己評価実施者：教員13人(令和6年3月)

評価内容：9領域26中項目175小項目

I 教育理念・教育目的、II 教育目標、III 教育課程、IV 教授・学習・評価過程
V 経営・管理過程、VI 入学、VII 卒業・就職・進学、VIII 地域社会・国際交流
IX 研究

評価点：0～3点

結果 総合平均点：2.7点(適切)

適切領域：I 教育理念・教育目的、II 教育目標、III 教育課程、IV 教授・学習・
評価過程、V 経営・管理過程、VI 入学、VII 卒業・就職・進学

平均以下領域：なし

ほぼ適切領域：VIII 地域社会・国際交流 IX 研究

3 第1回学校関係者評価委員会結果

今回は学校関係者評価委員会3回目の開催であった。本校は、2年課程から3年課程移行後の平成20年度以来、自己点検・自己評価に基づく学校運営の課題の抽出と解決に取り組んでおり、その蓄積をもとにし、令和3年度初回開催に続く第3回の学外委員の方々からの忌憚のない質疑や意見は一段と示唆に富む非常に有益なものであった。

9領域の各評価は、3点満点中、すべての項目で2点以上の総合平均2.7点であった。総合平均点が令和4年度2.3点から約0.4点上昇した。学外委員からは、学校運営状況は「ほぼ良好」との評価を頂いた。

前年度の課題であった項目のうち、XI研究に関しては、令和6年度新カリ3年生より看護研究が新科目となり、外部講師による講義が実施されている。本校教員の看護研究に関する学びに繋がるよう、共同研究者として本校教員の研究活動に携わっていただいている。

また、新任教員育成のための、新任者研修の一環として、授業参観を実施し他の教員から助言をいただくなど互いに協力し研究授業へ発展させられるよう学ぶ環境を整えた。

その結果、今年度は例年2.0を下回っていた点数が2.2まで上昇した。今後もこの点数が維持継続できるように教員が一丸となって教育の質の向上が図れるように努める。

学業不振やメンタル問題を抱える学生への個別指導や学生ピアサポート、カウンセリング等による支援は実施してきたが、1名の進路変更理由での退学者と1名の留年が決定した。

それ以外の学生は、新旧カリキュラムの推進のもと全学生が単位修得し進級や卒業を果たしたが、国家試験は1名不合格であった。次年度合格できるよう、学習計画の立案や教材の提供、専任教員の関わりなど今後も、サポートを継続する。

鹿屋市内の病院就職推進のための保護者会の工夫などの助言を活かし、令和5年度卒業生の市内就職率は約60%と過去最高に達したが、推薦入学者で鹿屋市外へ就職した学生が複数名おり、推薦入学者の鹿屋市内就職の課題が残った。

今後は出身校の高校の教師とも連携していく必要がある。

入学試験の志願者が減少傾向にあり、推薦入学者の枠をやや広げたことで定員を割ることはなかったが、今後も学生確保に関する課題が懸念される。

令和5年度は、新・旧カリキュラム並走での学校運営に取り組んだ。COVID19感染症の影響をはじめ、目覚ましい社会の変化に対応する、地域に根差した看護基礎教育機関としての本校の課題がより明確化されたことをもとに、看護基礎教育の質の向上につながるよう、保護者や地域との連携のもとに、理解と協力が得られるよう取り組む必要があると考える。